



地域を愛し、地域に愛される社協をめざして

第21号 2022 2/15発行

公津地区 社協だより

<主な内容>

特集 移動販売車がやってきたー買い物難民をなくすー成田市買い物支援事業……………1-2
セントケアこうづの杜がブリッジに参加…3
福祉体験学習を実施 平成小学校 西中学校



巡回販売車が来た！商品を見て、手で触れて、話ができ、買い物は楽しい。



特集

移動販売車がやって来た —買い物難民をなくす—成田市買い物支援事業

成田市は令和3年7月12日に(株)スーパーカスミと、同年11月19日に(株)ナリタヤ(とくし丸)と「買い物支援と地域の見守り活動支援に関する協定」を締結しました。この協定は、食料品等を巡回販売をしながら高齢者の見守り活動支援も行うというものです。いつも買い物に来ていたのに、何日もこない。近所の人も見かけないという場合には市へ連絡することになっています。公津地区では下記の場所で営業します。

買い物難民とは？

買い物難民、買い物弱者、買い物困難者とも表現されます。
住まいから500m以内に主に食料品の店舗が無い、自動車利用が困難な65歳以上の高齢者をさします。
(農林水産政策研究所の定義)
全国で824万6千人。高齢者の4人に1人が該当。(2015年調べ)
成田市でも都市部、郊外部を問わず、買い物難民が発生しています。市内の団地でも高齢化に伴い増加中とのことです。

原因は？

- 家族構成の変化・・・親子が同居しない
- 過疎化・・・若年層人口が減少 高齢者の転居ができない
- 高齢化・・・加齢により足腰が弱くなり歩行が困難となる
- 免許返納の推奨・・・高齢者の交通事故の増加、
・・・自家用車、バイクなど移動手段を失う
- 食料品販売所の減少・・・郊外型大型スーパー進出により
中小規模店舗が廃業した
- 大型スーパーの撤退・・・販売成績が悪いと閉店する

その結果

- 経済の悪化・・・地域商店街の閉店、治安の悪化
- 生活と生活の質(QOL)が低下
- 外出頻度の減少による生きがいの喪失・・・買い物の楽しみを失う、話相手がない
- 長距離移動にともなうリスク・・・転倒による骨折、自動車事故の多発
- 低栄養価にともなうリスク・・・地域・国の医療費や介護保険料の増加

可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最後まで続けることができるように



利用者は語る
買い物はうれしい
みんなと話ができて楽しい
息子にも生活があるし、悪いからいつも頼めない
タクシーで行ったら2,000円かかった
あの人はどうしたのかな？
施設の人が杖ついて出て来るよ
100メートル歩くのがやっと
近くに来てくれてほんとに助かる



とくし丸			スーパーカスミ		
場所	時間	曜日	場所	時間	曜日
宗吾 4丁目	13:50	月	大袋464 金堀団地	13:50	月 木
台方 超林寺	14:00	月	江弁須364	14:20	月 木
北須賀 カレッサ	14:15	月 木			
北須賀 宿公会堂	14:30	月 木			
北須賀 根山神社	14:40	月 木			
船形 作業所前	15:30	月			
船形 卓球場	16:00	月			

ご希望の商品を次回お持ちします。
嵐の場合お休みすることがあります。
販売地点で音楽を鳴らしています。

セントケアこうづの杜がブリッジに参加



麻生 裕也 施設長

当施設は、「通い」「泊まり」「訪問」という介護を同じスタッフが同じ場所で、対応する小規模多機能型居宅介護施設です。

「公津地区の全ての人を孤立させない」を目指す「公津ブリッジ」に新しく「セントケア公津の杜」が仲間入りしました。施設長にお話を伺いました。

スタッフは、被介護者の要望を言葉だけでなく、表情や行動からも読み取って行くことを大切にしています。

また、地域との交流を心掛けています。以前は、地域の子供達との触れ合いの場として8月に納涼祭を開催、平成小学校でのバザーや音楽会に参加しました。コロナ禍の今は、施設内で行っており、大正琴のボランティアの方が来てくれました。「地域との交流」の再開ができる日を心待ちにしています。（編集委員）

福祉体験学習を実施

12月3日平成小学校で福祉体験学習を行いました。コロナのため、平成小学校で福祉体験学習が行われるのは2年ぶりのこと。

当日、子どもたちはどんなことをするのかと、目を輝かせて参加してくれました。アイマスクで目を覆うと全く見えず「怖かった。」「車椅子を押すのは思っていたより大変。」「押しってもらうのは楽しかった。」

おそらく大多数の子が初めて体験することなので、興味深く楽しそうに行っていました。

これがきっかけとなり、体の不自由な方に接した時に、進んで手を差し伸べられる子になって欲しいと願っています。（谷 児童副部長）

11月11日、12日の2日間、西中学校1年生を対象に福祉体験学習を行いました。

昨年同様、車いすの乗車、介助体験とアイマスクをつけてのブラインドウォーク体験の2種類で、今年より点字ブロックも加わり、その意味と足の感触を確かめました。

この学習の目的は、障がいを持つ方へのサポート方法を学ぶと同時に障がいを持つことの大変さを知り、相手の立場にたって考えることの大切さを学ぶことにあります。

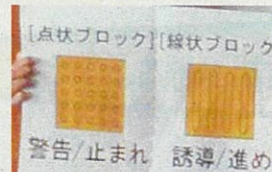
生徒さんたちは皆真剣に取り組んでくれて「こんなに恐いおもいをして生活している人がいるとわかり、町でそういう方を見かけたら是非声をかけてあげたい」等、生徒さんたちの温かい感想を聞き私たちもやりがいを感じ嬉しくなりました。近年、インターネットの普及が急速に進みそれにコロナ禍が追い打ちをかけ、増々社会全体が「非接触型」の方向



車いす段差乗り越え体験

へ進んでいくようで「人と人の絆が薄らいでいくのでは」と危惧していました。ですが、このような生徒さんたちと接し、このままの純真な心で成長して社会にでていってほしいと感じました。

（生田目児童部会長）



視覚障害者誘導用ブロックの学習

お知らせ

『ふれあい・いきいきサロン』房総バス旅行
令和4年3月22日〈火〉に実施します。
行先 房総方面 参加費 2,000円
対象 並木町居住の70歳以上の方
2月20日までに申し込み書を班長または区長まで提出

編集後記

社協だより21号をお届けします。コロナ禍の中、マスク着用、手洗いを実行し3密(密閉、密集、密接)を避け、自粛から自衛へ、この状況を乗り切りましょう。

編集委員

浅野恵美子 小川康子 折原繁 清宮英雄 谷亮子